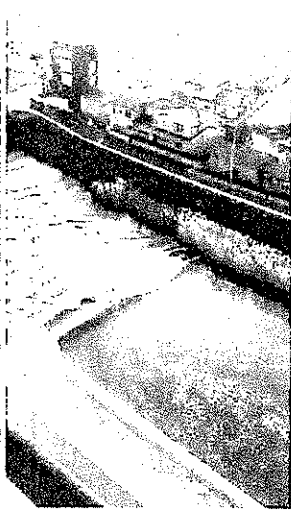


1/23
福井

M7.4 津波仙台1.4m

福島など震度5弱

17人重軽傷 避難1万4000人



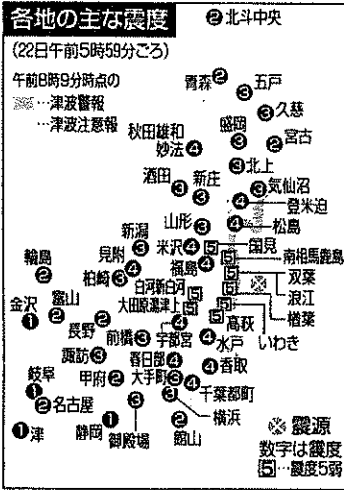
宮城県多賀城市の砂押川をこかのぼる津波(左から右) 22日午前5時59分(ツィッターより)

22日午前5時59分ごろ、福島県沖を震源とするマグニチュード(M)7.4の地震があり、福島、茨城、栃木の3県で震度5弱を観測した。仙台港(仙台市)に1.40m、福島県の東京電力福島第1、第2原発に1.00m、岩手県の久慈港に80cmの津波が到達した。その後も震度1〜4の地震が続いた。各地で計17人が重軽傷を負った。

【4面に表層深層、5面に論説19、27面に関連記事】

青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉各県で避難所などに一時身を寄せたのは共同通信の集計で約1万4千人に達した。沿岸の自治体は気象庁の情報に基づき避難を呼び掛ける

かどつかの判断をしたが、宮城県には同庁の予測を上回る津波が到達、急ぎ同庁は注意報から警報に切り替えた。避難を巡って自治体の対応に混乱が生じ、予測精度に課題を残した。一部地域では避難



各地の主な震度 (22日午前5時59分ごろ)

の車が渋滞した。

気象庁によると、東日本大震災の余震とみられ、1.40mの津波観測は大震災以降、最大。マグニチュードの規模はM7.3の阪神大震災や熊本地震を上回った。震源地は福島県いわき市の東北東約60km沖で、震源の深さは約25km。

気象庁は福島、宮城両県に津波警報、青森、岩手、茨城、千葉各県に津波注意報を出し、午後1時前に全て解除。今後1週間程度、最大震度5弱の地震と津波に注意が必要としている。

総務省消防庁によると、けがは宮城、福島、千葉各県と東京都の17人で、うち3人が重傷。午前6時15分ごろには、福島県いわき市の石油コンビナ

ト地区で火災が起き、約25分後に鎮火。宮城県内の漁港では小型ボート計17隻が転覆した。東北、関東地方の公立学校など300校以上が臨時休校した。東北新幹線は午前中一時運転を見合わせ、約2万4千人に影響。上越、山形、北陸、

東海道の各新幹線も一時ストップした。仙台空港は運用を一時停止、利用客は建物の上層階に避難した。政府は首相官邸内の危機管理センターに官邸対策室を設置。警察庁も警備局長をトップに災害警備本部を設置した。

福島第2冷却止まる

3号機燃料プール、90分超

東京電力によると、福島県で午前7時47分に冷却を再開した。同日午前6時10分ごろ、福島第2原発3号機(同県富岡町、楢葉町)で、使用済み核燃料プールの冷却水を循環させる系統が自動停止した。第2原発1〜4号機の設備の安全も確認した。